

「事業名：飯舘村における将来世代への復興知継承に向けた教育研究プログラム」

東京大学(連携:明治大学、福島大学) 連携市町村:飯舘村

現地拠点:福島県相馬郡飯舘村佐須滑87(認定NPO法人ふくしま再生の会事務所内)

事業のポイント

放射能汚染地というハンデを背負った飯舘村の復興には、単なる技術的な除染やインフラの物理的再建だけで終わらず、その先に新しい日本型(小規模世代間交流型)農業の創設にチャレンジする若者の育成が肝要である。それを踏まえ、本事業では以下の要点を据える。

1. 農業現場に根差し、かつ最先端のICT技術を用いたスマート農業に関する教育研究を実施することで、飯舘村各地に根付いた復興知を携えた国際レベルの超学問領域的研究を醸成し、飯舘村における新しい日本型(小規模世代間交流型)農業の発信基盤を構築する。
2. 学生を対象とした飯舘村の現地見学会や教育研究活動を展開し、農業実践者の方との交流の中で震災直後から蓄積されてきた知識(大学が有する大学知と現地の復興知)を現場の課題解決と研究活動に展開するFPBL(Field & Project Based Learning)を実践的に試みる。

人材育成目標

本事業では、飯舘村における農を中心とした生活の復興・拡大と復興知の将来世代への継承に資するため、下記を人材育成目標とする。

【小学ー中学世代】飯舘村における農を中心とした生活の歴史と魅力、および民族知を認知し、浜通りの農業とその将来に興味を示す人材

【高校ー大学世代】最先端のICT技術に関する知識を有し、農業現場の課題解決に資する実践や研究活動を行うことを目指す人材

【農業実践者世代】飯舘村各地に根付いた復興知とスマート農業の現場知を、実践する姿を示すと共に将来世代へ引継ぎ可能な人材

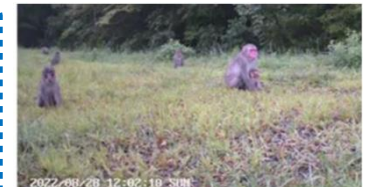
2023年度の活動内容

(1) 農を中心とした生活の復興と拡大のための研究プログラム(実地研究とラボ実験による多面的研究)

村内里山部の再生と利用再開に向けた検討を行い、農村地域内の有機物循環に基づくリジェネラティブ農業の試み(農業残渣の再利用や地域資材を利用したたい肥作り)、ICT技術を活用した農業実践(遠隔草刈り)、農山村における電波ネットワーク構築(見守りや動物モニタリング)、およびキノコ・山菜の食文化復活に資する調査を実施する。

(2) 復興知の将来世代継承と発展のための教育プログラム(現地体験と交流会およびワークショップの実施)

全国各地の大学生を招聘し、現地における多様なステークホルダー(農家、通いの住民、移住者、道の駅、村役場など)との交流を含むフィールドワークプログラムを実施する。また地域愛着や自己効力感といった指標を用いて飯舘村との関係人口醸成度を評価することで、飯舘村の関係人口と共創する地域づくりに資する。



モニタリングカメラに映った猿



当初の地表面を保存する土壌博物館

取り組みによって得られる成果

- ・飯舘村における最先端のICT技術を活用したスマート農業の実践と研究の発信。
- ・将来世代と飯舘村における農業実践者の方との交流と知識の伝承。
- ・里山部の利用再開にむけた検討に資する学術的知見の蓄積。



将来世代と実践者との交流と知識伝承



里山部の再生と資源利活用に向けた調査